

# M I F F の変貌と方向

終

## 資源力にソフト力の加算が魅力に

### 暮らしスタイルの発信を

M I F F の方向という面では先に述べた来年の新会場10万坪のフェアコンセプトが注目される。アジア、アセアンの家具産業でルームコーディネートのための家具開発、素材活用は進化したが、フェアそのもののコンセプトや暮らし提案のソフトは欧米に比べて遅れがちだ。

しかし、この分野でリードしてきたマレーシアン・オーク(ラバーウッド)材は、まだ主流の座は維持しつつも、なんらかの代替材や工業素材(樹脂や金属ほか)との混合活用などが、新デザインや技術革新面から今後、避けがたい。

今回のフェアで感じたひとつに対象市場の変遷があった。特に中東やインド市場への出展製品はスタイル面で仕向け地対応を見せた。その点から、マレーシアで開催する家具ビジネスが、世界市場の好不調と住生活の発展地域をうかがわせる指針とみられた。

例えばインド市場、中東市場に向けた寝室トータル製品は「無垢材」で「シックな」きわめて地味な大型サイズの製品で占めた。もとより日本市場には向かないが、その最たるものはブリスに入って真っ先に感じる全体



地味な台製品

的な暗さであった。照明ではない。無垢材が醸す黒っぽさ、一昔前のオイル仕上げのようなきわめて素朴なもので、かつブリスのパネル自体そうした仕上げで構成していた。



ライフスタイル訴求ブリス

M I F F の魅力のひとつに、この連載で紹介した生産地「モア」がある。こうした生産地形成と共に多様な製品を開発生産できるという対応力、そして木材産業が持つ幅広い新素材開発活用が上げられる。そうした資源力に、オリジナルなデザイン開発のソフト力を加算すれば、ユニークでさらに魅力を増した国際規模のフェアになるのは間違いない。

(終、長島)